

島根県立石見美術館 コレクション展「森鷗外と宮芳平」の開催について

島根県立石見美術館では、コレクション展「森鷗外と宮芳平」を下記のとおり開催いたします。

記

1. 会 期 2019年2月10日（日）～2019年4月8日（月）

休 館 日：毎週火曜日

開館時間：10:00～18:30（展示室への入場は18:00まで）

2. 会 場 島根県立石見美術館 展示室A（グラントワ内）

3. 概 要・見どころ

宮芳平（1893-1971）は、新潟県魚沼市に生まれました。東京美術学校西洋画科に在学中、満を持して出品した大作《椿》が秋の文展（文部省美術展覧会）に落選すると、芳平はそれに納得がいかず、理由を聞くために文展の審査委員だった森鷗外を訪ねます。鷗外は突然の訪問を快く受け入れ、それが縁で以後二人の交流が始まりました。このやりとりはのちに鷗外によって短編小説『天寵』として発表されます。鷗外は芸術を一途に希求する芳平の純朴な性格を愛し、絵を購入したり、近況を聞いてアドバイスをしたり、生涯を通じて父のように接しました。芳平は美術学校を中退後、職を得るために長野県の諏訪市に移住。美術教師として勤めながら、諏訪の自然を背景にした絵を描きました。戦中戦後の貧困のなか家族を養い、絵を描き続けるつらさや喜びは多くの言葉につづられています。本展では詩情あふれる宮芳平の油彩画や銅版画のほか、二人にゆかりのあった画家たちの作品を紹介します。

（展示点数約40点）



宮芳平《自画像（眼を病める）》昭和10（1935）年